

■研究推進委員会 2022 年度 活動報告書

提出日：2023 年 3 月 31 日

名 称	生態工学研究推進委員会
委員長	氏名（所属）：倉本宣（明治大学）
幹 事	氏名（所属）：八色宏昌（景域計画（株）） 連絡先（e-mail アドレス）：yairo@keiiki.co.jp
その他 構成員	氏名（所属）： 板垣範彦（いきものランドスケープ）、井上剛（(株) エスアイエイ環境事務所）、裏戸秀幸（横浜市）、大澤啓志（日本大学）、勝野武彦（日本大学名誉教授）、亀山章（(公財) 日本自然保護協会）、黒田貴綱（日本大学）、園田陽一（国際産業技術専門学校）、趙賢一（(株) 愛植物設計事務所）、徳江義宏（日本工営（株））、中村忠昌、春田章博（春田環境計画事務所）、日置佳之（鳥取大学）、宮本 渉、森本幸裕（(公財) 京都市都市緑化協会）、養父志乃夫（和歌山大学）、渡邊敬太（大成建設（株））
今年度 活動報告 成果	<p>1. 「生きもの技術ノート」および「用語解説」の企画編集 月に1回の研究推進委員会を開催し、学会誌に連載中の「生きもの技術ノート」（年4回）および「用語解説」の企画立案、編集作業を実施し、学会誌に「生きもの技術ノート」を年4回連載した。テーマは「湿原における相対地下水位の簡便な地図化手法」、「廃校プールにおける浮島を活用した自然創出の取り組み」、「多様なステークホルダーと連携したツチガエルの野生復帰について」、「EU Life programme にみる特に哺乳類を対象とした生物多様性保全活動の特徴」である。同時に用語解説として「TCFD/TNFD」、「自然に根ざした解決策 (NbS)」、「OECM (Other Effective area-based Conservation Measures)」、「生態系のレッドリスト (RLE)」を掲載した。</p> <p>2. シンポジウムの開催 2022 年度日本造園学会全国大会において 2022 年度全国大会ミニフォーラム「生態工学のアプローチによる「(仮称) 生物多様性技術指針」の策定に向けて」を開催した。</p> <p>3. 2023 年度全国大会ミニフォーラムの企画立案 2022 年度に引き続き、2023 年度全国大会ミニフォーラムの開催を目指し、テーマ「地域性種苗がもたらすもの」を企画し、ミニフォーラムに応募した。</p> <p>4. 「(仮称) 生物多様性技術指針」の出版企画 2022 年度全国大会ミニフォーラム「(仮称) 生物多様性技術指針」の策定に向けて」を受けて、「(仮称) 生物多様性技術指針」の出版企画について検討を行った。</p>